

タイトル	退職に際して
著者	寺田, 吉孝; TERADA, Yoshitaka
引用	北海学園大学人文論集(74): 11-24
発行日	2023-03-31



寺田吉孝教授

退職に際して

寺田吉孝

1. 着任前，着任の頃

着任の前々年，モスクワに留学していた。留学の前後の期間には，履歴書に記載した職歴以外にも，大学非常勤講師（中京大学，大阪外国語大学，日本福祉大学，中部大学），予備校講師（河合塾，代ゼミなど），予備校経営，高校非常勤講師（大阪電気通信高校，花園高校），看護専門学校講師などの職を経験していた。北海学園大学の応募書類の「長所」の欄に「生徒，学生の面倒見が良い」と書いた記憶がある。

着任前は神戸に住んでいた。5歳の娘に北海道へ引っ越しすることを告げると、「ホッカイドーってハローと言うの」という答えが返ってきた。その娘も36歳になり，2歳の娘の母親である。時がたつのは早いものである。

2. 教養部から人文学部へ

1992年に，北海学園大学教養部に着任した。教養部は大学全体の教養教育を担当していた。担当するロシア語は，第2外国語系列の科目だった。当時，第2外国語系列に所属していたドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語の担当者全員が同じ教授会メンバーだったので，意思疎通が円滑だった。しかし，1998年3月末をもって，教養部が解体され，教養部教員は各学部へ分属した。

教養部解体後，共通教育研究センター，経済学部，経営学部を経て，2008年に人文学部所属となった。人文学部所属と言っても，全学のロシア語科目を担当するだけで手いっぱいだったので，人文学部の教育にはほとんど携わっていない。しかし，教養ゼミや人文学演習で，中欧，東欧や旧ソ連

圏を話題にすることもあった。西欧にしか興味のない学生たちがほとんどだったが、「西欧の東」にも興味をもってもらうように指導したつもりである。論文や翻訳等の投稿も『学園論集』が主だったので、『人文論集』に書かせていただいたのは、この「退職の挨拶」が最初で最後である。人文学部への貢献が乏しかったことを申し訳なく思っている。

3. ヴラヂーミル大学との交流

北海学園大学に着任後すぐのロシア語の授業で、「ロシアへ行きたい」という声が上がった。当時、本学にはロシアに協定校がなかった。そこで、自前で留学先を確保し、学生たちをロシアへ連れて行くことにした。

友人のユーリイさん（ユーリイ・アレクサンドロヴィチ・シェルバコフ；当時ヴラヂーミル大学上級講師）が勤める国立ヴラヂーミル大学が留学の受け入れを許可してくれた。第1回のヴラヂーミル大学夏期研修は1994年に行われた。14名の参加者が集まった。

1994年夏のロシアは、ソ連崩壊後2年半しか経っていなかったもので、混乱が続いていた。血を流して道で倒れている人、物乞いする老人、金品をねだる浮浪児、火を噴くバス、ころがる動物の遺体など、日本ではちょっと見られない光景があった。また、大学の学生寮でも、停電、断水、雨漏り、ゴキブリの異常発生などがあった。自分一人であれば、適当にやり過ぎすようなことでも、学生たちを連れていくとそうはいかない。危機脱出のための交渉の連続だった。予期せぬロシア語の訓練だった。

帰国後、夏期研修に参加した学生たちがロシア研究愛好会というサークルを組織した。現在、ロシア研究同好会と改称されているが、活動は続いている。ヴラヂーミル大学での研修は、コロナ禍の前年の2019年までの26年間に17回（夏14回、春3回）実施されている。

2015年以降の研修の際には、派遣学生たちとともに日本文化フェスティバル（お茶、お花、生け花、日本食、玩具、着物の着付けなどの紹介イベント）を開催した。当日は、地元のテレビ局や新聞社の取材を受けた。

4. ロシア語教育

教養部解体以降、本学のロシア語教育は大きく変わった。教養部時代は、1年次のロシア語科目が週2回の選択必修だった。2年次は週2回の自由選択だった。教養部解体後、ロシア語科目は、1年次から4年次までの授業が開講されることになり、科目数が格段に増加した（ロシア語基礎Ⅰ～Ⅳ、ロシア語会話Ⅰ～Ⅳ、ロシア語文化Ⅰ～Ⅲ、ロシア語文化演習Ⅰ・Ⅱ、ロシア語言語演習Ⅰ・Ⅱ、ロシア語言語文化演習Ⅰ・Ⅱ）。しかし、ロシア語科目は、ほぼすべての学部学科で自由選択となった。選択必修のころとは異なり、困難なことが多かった。

- ・豊平校舎の1年次後期、2年次学生には、週3回のロシア語科目が開講されるが、時間割上、学部の専門科目と重なることもあったので、実際には、週1回、週2回しか受講できない学生が大半だった。
- ・選択必修の頃の週2回用の教科書は使用することができなくなった。基礎・会話・文化で異なる週1回用の教科書を作成する必要が生まれた。
- ・週1回受講・週2回受講・週3回受講の学生が同一クラスに混在することになったので、授業の進め方にも再検討が求められた。一つの解決策として、自宅での予習・復習のために、『ロシア語文法ハンドブック』を作成した。これは、授業での板書時間削減にも貢献した。

5. 教科書

1998年の新カリキュラム移行後、20冊以上の教科書を作成した。その一部は、業績一覧にある。現在も2冊の教科書を作成中である。1冊は、北海学園大学のロシア語基礎Ⅰ・Ⅱと札幌大学の基盤ロシア語Ⅰ・Ⅱで使用する教科書である（北海学園大学のロシア語基礎科目担当者と札幌大学の基盤ロシア語担当者との共著）。2022年4月から手作りの私家版を試用してきた。2023年3月に試行本を発行する予定である。もう1冊は、北海学園大学のロシア語会話Ⅰ・Ⅱと札幌大学の基盤ロシア語Ⅰ・Ⅱで使用する教科書である（ヴラーソワ氏とサヴィヌイフ氏との共著）。2023年3月に試行本を発行する予定である。

6. 『ドブロトヴォールスキイのアイヌ語・ロシア語辞典 (1875年)』

2022年11月に『ドブロトヴォールスキイのアイヌ語・ロシア語辞典 (1875年)』の翻訳本を安田節彦氏との共著として発行した。本書は、著者のM. M. ドブロトヴォールスキイの死後、兄のI. M. ドブロトヴォールスキイ（カザン大学教授）が弟の遺稿を編集して発行したものである。着任後ほどなく、教養部教授の藤村久和氏から本書の翻訳の依頼があった。簡単に終えることができると思ったので、翻訳を引き受けてしまった。だが、かなり大変な書物であった。本書の翻訳に関しては、紆余曲折があった。1995年の翻訳開始後、2度の長い中断があり、翻訳本発行までに27年も要してしまった。

7. 在外研修など

北海学園大学着任後、在外研修（校費、私費）を数回実施させていただいた。

- ・1999年9月～12月（3か月）ウクライナ，ハリコフ電子通信大学
- ・2004年9月～10月，2005年5～9月（6か月）ロシア，ヴラヂーミル大学
- ・2004年10月～2005年2月（3か月）ブルガリア，ソフィア大学
- ・2005年2月～5月（3か月）ウクライナ，ハリコフ電子通信大学
- ・2010年4月～9月（6か月）ウクライナ，ハリコフ電子通信大学
- ・2016年4月～7月（3か月）ロシア，ヴラヂーミル大学

8. 研究

北海学園大学着任後、業績一覧にあるように、ロシア語語形成論、ロシア語語彙論、ロシア語地名学、ウクライナ語史などに関する論文を発表している。

現在、研究を継続していきたいと思っているのは、ウクライナ語とロシア語の語形成の比較研究、D. I. バハリイやM. F. スムツォフのスロボジャンシナ研究の翻訳紹介である。

9. その他

2014年のソチオリンピック期間中に起こった親米派によるウクライナ・クーデター。クーデターに成功した新政権側と東ウクライナのドンバス地域に立てこもった旧政権側。明治維新の時の函館に似ているようであるが、国外からの支援（あるいは圧力）があるのが大きく異なる点である。

旧政権側を支援する「ロシア」と「新政権とそれを支援する欧米（+日本）」との戦いが2022年に本格化してしまった。ウクライナの一般の人達からの情報によると、ウクライナの国民の多くはクーデターを望んでいなかったという。現在、そのような多くのウクライナ国民が生命の危機に瀕している。殺人者は間違いなく罰せられるべきである。しかし、殺人に導いていった者も何らかの罰を受けるべきであると考ええる。

ロシア国民の多くは、ウクライナに親戚（親や兄弟も含めて）が暮らしている。当然ながら、ウクライナ国民の多くは、ロシアに親戚（親や兄弟も含めて）が暮らしている。その人たちの心配、悲しみは計り知れない。ある意味、ウクライナとロシアは一体である。

ロシア軍の攻撃にさらされているハリコフには多くの知り合いがいるが、皆厳しい生活を送っておられる。国外（オーストリア、フランス、ルクセンブルグなど）に避難した方々、国内の比較的安全な所（スームイ、ハリコフ州南部など）に避難した方々、ハリコフに残っている方々、消息不明の方々。ハリコフに残っている方々の内の一人、ハリコフ大学元准教授 L. B. ベイさんは、ミサイルや砲弾が飛び交うハリコフ市北部で暮らしておられる。テレビや新聞では知ることができないウクライナ市民の生の声を定期的に聞かせてくださっている。一日も早い戦争終結を祈るばかりである。

略 歴

寺田吉孝 てらだよしとか 1954年7月23日生まれ

学 歴

- 1978年3月 大阪外国語大学外国語学部ロシア語学科卒業
- 1980年3月 大阪外国語大学大学院外国語学研究科ロシア語学専攻修士課程修了（文学修士）

職 歴

- 1981年4月 大阪繊維学園向陽台高等学校教諭（1983年3月まで）
- 1986年4月 津田学園津田中高等学校教諭（1987年2月まで）
- 1992年4月 北海学園北海学園大学教養部講師
- 1996年4月 北海学園北海学園大学教養部助教授
- 1998年4月 北海学園北海学園大学共通教育・研究センター教育研究部助教授
- 2001年4月 北海学園北海学園大学経済学部教授
- 2004年4月 北海学園北海学園大学経営学部教授
- 2008年4月 北海学園北海学園大学人文学部教授

学 内 委 員

ロシア協定校専門委員，教務委員，入試委員，キャリア支援委員，学生委員，開発研究所運営委員，在外研修委員など

所属学会等

日本ロシア文学会
JACTFL（日本外国語教育推進機構）会員

NPO 法人札幌青少年国際交流協会幹事

ウクライナ赤十字社ハルキウ州支部機関誌『Червоним по білому』編集委員

学会役員

日本ロシア文学会理事（2015年～2019年）

日本ロシア文学会北海道支部長（2017年～2019年）

客員教授

レスブリッジ大学（2006年9月～12月）

主な研究業績

著書

1. 『初級者のためのロシア語文法便覧』，平成13年3月，共同文化社
2. 共著『ドイツ，フランス，中国，ロシアとその周辺地域の言語と文化』，平成16年3月，共同文化社
3. 『入門者および初級者のためのロシア語文法ハンドブック』，平成16年9月，アーバンプロ出版センター
4. 『入門者および初級者のためのロシア語文法ハンドブック 改訂版』，平成20年4月，アーバンプロ出版センター
5. 共著『ドイツ，フランス，中国，ロシア，韓国・朝鮮とその周辺地域の言語と文化』，平成21年3月，共同文化社
6. 共著『ドイツ，フランス，中国，ロシア，韓国・朝鮮とその周辺地域の言語と文化 改訂版』，平成25年4月，共同文化社
7. 『入門者および初級者のためのロシア語文法ハンドブック 三訂版』，平成24年10月，アーバンプロ出版センター
8. 『入門者および初級者のためのロシア語文法ハンドブック 四訂

版』, 令和 2 年 5 月, アーバンプロ出版センター

9. 共訳著『ドブロトヴォールスキイのアイヌ語ロシア語辞典』, 令和 4 年 11 月, 共同文化社

翻訳

1. 「異文化間コミュニケーションにおける民族的特徴について」, 平成 5 年 3 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 75 号
2. 「アイヌ語・ロシア語辞典(1)」, 平成 7 年 6 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 84 号
3. 「アイヌ語・ロシア語辞典(2)」, 平成 7 年 9 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 85 号
4. 「アイヌ語・ロシア語辞典(3)」, 平成 8 年 3 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 86・87 号
5. 「アイヌ語・ロシア語辞典(4)」, 平成 8 年 12 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 90 号
6. 「アイヌ語・ロシア語辞典(5)」, 平成 9 年 4 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 91 号
7. 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(6)」, 平成 21 年 12 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 142 号
8. 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(7)」, 平成 22 年 3 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 143 号
9. 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(8)」, 平成 23 年 3 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 147 号
10. 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(9)」, 平成 23 年 6 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 148 号
11. 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(10)」, 平成 23 年 9 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 149 号
12. 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典(11)」, 平成 23 年 12 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 150 号

13. 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典 (12)」, 平成 25 年 3 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 155 号
14. 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典 (13)」, 平成 25 年 6 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 156 号
15. 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典 (14)」, 平成 25 年 9 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 157 号
16. 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典 (15)」, 平成 25 年 12 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 158 号
17. 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典 (16)」, 平成 26 年 3 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 159 号
18. 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典 (17)」, 平成 26 年 6 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 160 号
19. 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典 (18)」, 平成 28 年 3 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 167 号
20. 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典 (19)」, 平成 28 年 9 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 169 号
21. 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典 (20)」, 平成 28 年 12 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 170 号
22. 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典 (21)」, 平成 29 年 3 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 171 号
23. 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典 (22)」, 平成 29 年 12 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 173・174 号
24. 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典 (23)」, 平成 30 年 3 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 175 号
25. 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典 (24)」, 平成 30 年 7 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 176 号
26. 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典 (25)」, 平成 30 年 11 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 177 号
27. 共訳「アイヌ語・ロシア語辞典 (26)」, 平成 31 年 3 月, 北海学園大

論文

1. 「18世紀末から19世紀初に至る期間のロシア標準語における語彙構成の変化」, 昭和57年12月, 大阪外国語大学修士会『外国語・外国文学研究』, 6号
2. 「現代ロシア語の-ниеで終わる名詞について」, 昭和59年12月, 中京大学学術研究会『中京大学教養論叢』, 第25巻, 第3号
3. 「現代ロシア語の語形成論について」, 昭和61年3月, 中京大学学術研究会『中京大学教養論叢』, 第26巻, 第4号
4. 「ロシア語におけるперфективацияによる体のペアの形成について」, 平成元年3月, 中京大学学術研究会『中京大学教養論叢』, 第29巻, 第4号
5. 「ロシア語におけるимперфективацияによる体のペアの形成について」, 平成4年9月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第73号
6. 「ロシア語初級文法書作成のための基礎資料」, 平成8年6月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第88号
7. 共著「相互理解を妨げるものは何か? —ロシア人とのコミュニケーションにおけるいくつかのルールについて—」, 平成11年9月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第101号
8. 共著「ウクライナ語の源泉と特徴について」, 平成12年7月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第104号
9. 共著「ロシアの昔話の世界」, 平成13年7月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第108号
10. 「ロシア語の動詞派生名詞について(1)」, 平成14年3月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第111号
11. 「ロシア語の基礎語彙について(1)」, 平成14年5月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第112号
12. 共著 Роль языка и культуры в процессе развития и духовного

- обогащения индивида, 平成 15 年 6 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 116 号
13. 共著 Роль художественной иллюстрации при изучении русской сказки в иностранной аудитории, 平成 15 年 6 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 116 号
 14. 共著 К вопросу преподавания русского языка японским студентам, 平成 17 年 3 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 123 号
 15. 共著 Грамматические ошибки в русской речи японских студентов как результат взаимодействия двух языковых систем, 平成 19 年 3 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 131 号
 16. Учебник для чтения с лингвострановедческим словарём, 平成 19 年 9 月, Мир русского слова и русское слово в мире, 第 2 卷, HERON PRESS, Bulgaria
 17. 共著「ロシアの地名について(1) —ヴラヂーミル市のゴドニーミヤの形成過程に関する問題—」, 平成 20 年 9 月, 北海学園大学開発研究所『開発論集』, 第 82 号
 18. Преподавание иностранных языков в университетах Японии, 平成 23 年 1 月, Новий Колегіум 2011 ①, Харківський національний університет радіоелектроніки
 19. 「ロシア語の基礎語彙について(2)」, 平成 23 年 6 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 148 号
 20. 共著「ウクライナ語正書法史」, 平成 23 年 9 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 149 号, 北海学園大学学術研究会
 21. 「ロシアの地名について(2) —ヴラヂーミル州の河川名の起源—」, 平成 25 年 3 月, 北海学園大学開発研究所『開発論集』, 第 91 号
 22. О названиях рек во Владимирской области, 平成 25 年 5 月, Лексикография. Язык. Речь., Сборник статей памяти Анны Липовской, София大学出版局, София

口頭発表

1. 「第2外国語としてのロシア語の教育について」, 平成10年7月, 日本ロシア文学会北海道支部, 北海道大学
2. 「初歩のロシア語教育について」, 平成10年10月, 日本ロシア文学会全国大会, 埼玉大学
3. Как и Что Изучать о России?, 平成15年6月, 日露国際シンポジウム, 北海学園大学
4. Об обучении Японских Студентов Русскому и Украинскому Языками, 平成17年5月, ハリコフ州諸大学ロシア語教員連絡会議, ハリコフ電子通信大学
5. 北海道におけるロシア語教育の現状 (ワークショップ・パネリスト)」, 平成19年7月, 日本ロシア文学会北海道支部, 札幌大学
6. Русская лексикология: Тенденции развития — Учебник для чтения с лингвострановедческим словарём —, 平成19年9月, МАПРЯЛ(ロシア語・ロシア文学教師国際協会), 第11回大会, ブルガリア, ヴァルナ市
7. Анализ преподавания иностранных языков в вузах Японии и некоторые пути стимулирования японских студентов к изучению русского языка, 平成22年9月, ハリコフ電子通信大学
8. 「M. M. ドプロトヴォールスキとその『アイヌ語・ロシア語辞典』」, 平成30年7月, 日本ロシア文学会, 2018年度北海道支部会, 北海道大学

教科書

1. 共著 КУРС РУССКОГО ЯЗЫКА 『ロシア語教程』, SI 図書企画, 平成7年6月
2. РУССКИЙ ЯЗЫК ДЛЯ НАЧИНАЮЩИХ 『ロシア語基礎コース』, SI 図書企画, 平成10年4月
3. 共著 ДАВАЙТЕ ОБЩАТЬСЯ ПО-РУССКИ 『ロシア語でコミュニ

- ケーション』, 共同文化社, 平成 13 年 3 月
4. 共著 ЧИТАЕМ, ПЕРЕВОДИМ, РАЗГОВАРИВАЕМ И ДУМАЕМ ПО-РУССКИ 『ロシア語を読んで, 翻訳して, 話して, そしてロシア語で考えましょう』, SI 図書企画, 平成 13 年 4 月
 5. РУССКИЙ ЯЗЫК ДЛЯ НАЧИНАЮЩИХ 『ロシア語基礎コース 改訂版』, SI 図書企画, 平成 14 年 5 月
 6. 共著 МИР РУССКОЙ СКАЗКИ 『ロシア昔話の世界』, 共同文化社, 平成 16 年 3 月
 7. 共著 ДАВАЙТЕ ОБЩАТЬСЯ ПО-РУССКИ (2) 『ロシア語でコミュニケーション (2)』, 共同文化社, 平成 16 年 4 月
 8. 共著 ДАВАЙТЕ ОБЩАТЬСЯ ПО-РУССКИ (1) 『ロシア語でコミュニケーション (1)』, 共同文化社, 平成 16 年 7 月
 9. РУССКИЙ ЯЗЫК ДЛЯ НАЧИНАЮЩИХ 『ロシア語基礎コース 三訂版』, SI 図書企画, 平成 18 年 4 月
 10. 共著 ОБО ВСЁМ ПО-НЕМНОГУ (1) 『ロシア語中級コース』, SI 図書企画, 平成 25 年 3 月
 11. 共著 ОБО ВСЁМ ПО-НЕМНОГУ (2) 『ロシア語中級コース』, SI 図書企画, 平成 25 年 3 月
 12. 共著 ДАВАЙТЕ ОБЩАТЬСЯ ПО-РУССКИ —ЭЛЕМЕНТАРНЫЙ УРОВЕНЬ— 『ロシア語でコミュニケーション 初級レベル』, SI 図書企画, 平成 25 年 3 月
 13. РУССКИЙ ЯЗЫК ДЛЯ НАЧИНАЮЩИХ 『ロシア語基礎コース 四訂版』, SI 図書企画, 平成 25 年 4 月
 14. 共著 ДАВАЙТЕ ОБЩАТЬСЯ ПО-РУССКИ 『ロシア語でコミュニケーション 入門レベル (1)』, SI 図書企画, 平成 28 年 4 月

その他

1. 「ロシアはいいところかもしれない!!?」, 平成 9 年 4 月, Z 会ペブル選書 『留学の達人』 所収

2. 「北海学園大学におけるロシア語教育」, 平成 10 年 9 月, 北海学園大学学術研究会『学園論集』, 第 96・97 号
3. 『地球の歩き方〈ロシア〉 2002～2003 版』, 平成 13 年 7 月, ダイアモンド社, (ウクライナ語部分の校閲など)